

任、1人退任

着 任



榎尾 聡美さん (33)

「文化的要素は人間が生きていく上で外せないもの。私と地域の方がお互いに刺激し合い、常室にはいつも楽しいことがあると思ってもらえるようにしたい」と語る愛知県出身の榎尾さんは染色を専門とする芸術家。岡山県立大学デザイン学部や京都市立芸術大学美術学部で教鞭をとっています。

平成29年に徳島県神山町の株式会社リレイシヨン(地域マネジメント・不動産マネジメント)に契約社員として入社、当地で行われている地域滞在型人材研修「神山塾」に参加し、そこで浦幌のことを知りました。

大学教員時代からワークショップなどを行ってきましたが、「小さな世代にも関

わっていかれたら」と考えたそうです。また、神山町ではお年寄りを対象にワークショップを実施。「参加者は人とのつながりを求めています。常室も、芸術や色々な要素を掛け合わせて、子どもも大人もお年寄りも集まる場所にできたら」と話します。

初めに取組みたいことは、地域の人々に「町の好きなところを教えてください」と呼びかけ、写真や思い出の品をモチーフに染色の作品を作ること。町の良いところを知ると同時に、交流を深める狙いです。「子どもからお年寄りまで、色々な世代の方と、ものづくりや学びを通して関わっていかれたらと思います。よろしくお願ひします」と話しています。

着 任



平川 貴史さん (24)

札幌市出身の平川さんは北海道教育大学釧路校から同大学の大学院に進み、今春修士課程を修了しました。大学院では学習動機づけのための進路指導やキャリア教育について研究していました。「子どもたちは、今やっっている勉強が将来に役に立つことを実感すれば意欲的に勉強します」と語り、地域の大人が教育に参画しふるさと学習を行ううらほろスタイルの取り組みと合致し、浦幌町の協力隊員に応募しました。

「地域の中で、地域を作っていく人材を、どう育てていけばいいのかというところに関心があるので、そこに向けて、理論と実践の往還をしていきたいと思っています」と話します。

ただ、協力隊員に決まる前は、浦幌は通過点として訪れたことしかなく、道の駅周辺以外は知らなかったそうです。それでも1月の「しゃっこいフェス」にスタッフとして参加。「浦幌部」の高校生とも交流を深め、着任後再会を喜んだそうです。

趣味は写真撮影。なんとなく目についたものを撮るのが好きで、「まず、浦幌の四季を感じたい」とイベントにも積極的に参加する方針です。

町民への挨拶として、「浦幌町のことはまだあまり知りませんが、町民の方々に教えてもらいながら貢献していければ」とさわやかに話しています。

地域おこし協力隊3人着

退任



吉田 成近さん (27)

「酪農を全く知らない状態で酪農の世界に飛び込んだので、浦幌に来て、一から先輩方に教えていただいた牛を見れるようになった。まだまだ修行中で分からないことがたくさんありますけれども、この道を選んで良かったと思います。これからもこの道をつき進むことが定まった3年間でした」。在任中を振り返り、関係者への感謝と充実感を言葉にしました。

退任した吉田さんは千葉県出身。大学では農業経済を学んでいました。酪農に興味を持ったのは、大学3、4年のときに研究室活動で、栃木県で堆肥と飼料用稲の交換の取り組みを学んだことがきっかけ。そして就職活動の中で農業の現場で働きたい自分の気持ちに気付き、それが

着任



村川奈津子さん (33)

埼玉県出身の村川さんはオーストラリア、アイルランドに計3年間、ワーキングホリデーで渡航。「多少英語ができますのでお役に立てれば」と話します。アパレル業界、大手出版社に務めた経験もあります。徳島県神山町での地域滞在型人材研修「神山塾」の「KATALOG」コースを経て、浦幌にやってきました。

神山塾では、浦幌とつながりのあるスタッフからの話や、浦幌の北村林業のフライヤーづくりの中で浦幌のことを知り、「これから面白いことが起こりそうな場所」と注目。わくわく感、期待感を持って着任しました。「地域では当たり前前のごとがよそから見たら特別なものということもある。そうしたリソースを見つけて、一つひ

とつ形にして発信していきたい」と話します。

「地方側からは、婚活や移住では『子供を産める世代』を呼び込むことが求められますが、雇用がなければ専業主婦だけに限られてしまいます。現在は女性が働き続ける社会。行った先に仕事がないのでは、幅広い女性に受け入れられない」と懸念し、「女性が働ける何かを生み出し新しい生活スタイルや文化を作るきっかけにしたい。住んでいる人が立ち上がるサポートを」と意欲を燃やします。

「町のこと、町の人のことを色々知って、少しずつ楽しいことを作っていきたいと思っています。よろしくお願ひします」と話しています。

「酪農を全く知らない状態で酪農の世界に飛び込んだので、浦幌に来て、一から先輩方に教えていただいた牛を見れるようになった。まだまだ修行中で分からないことがたくさんありますけれども、この道を選んで良かったと思います。これからもこの道をつき進むことが定まった3年間でした」。在任中を振り返り、関係者への感謝と充実感を言葉にしました。

退任した吉田さんは千葉県出身。大学では農業経済を学んでいました。酪農に興味を持ったのは、大学3、4年のときに研究室活動で、栃木県で堆肥と飼料用稲の交換の取り組みを学んだことがきっかけ。そして就職活動の中で農業の現場で働きたい自分の気持ちに気付き、それが

4月からも町内酪農家で働き、酪農へルパーも続けています。